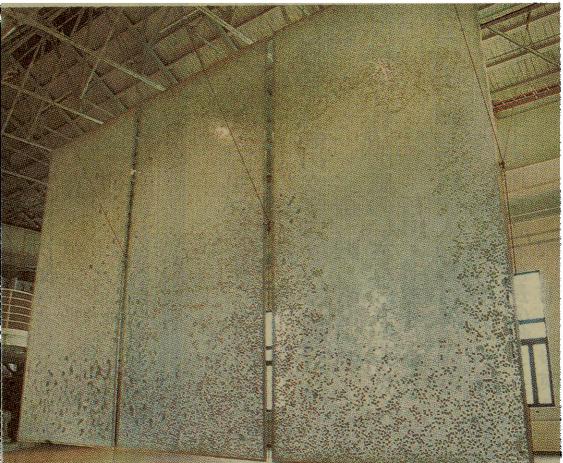


文化芸術

SILK国内初発表

角永和夫 猫いこ5万匹で新作



5万匹のかいこを使った新作「SILK」No.3 ABC」(2006年、いずれも800×400×45cm)＝富山県入善町の発電所美術館で

米国を中心に発表を続ける角永和夫の個展が実現した。絹作品の制作は約二十年ぶり。国内での発表はこれが初という。善町の発電所美術館で開かれている。石川県出身だが、還格子の白い網を三枚重ねて張ったアーミー枠。ここに新潟県の養蚕農家が育てた約五万匹のかいこの間に繭を載せ、網

会場での制作中はかいこが動く「カサカサ」という音が周囲に響いたというが、まゆが

さなぎになつたかいこは

通して見ると、無数の繭の樽破つて丸になり、外へ出でてくるまでやってみる」。作品の

内(だえん)が不規則に散らばっている。上に向かう性質

変遷 その過程の最初から最後までをいつか美術館で見届けたいと機会を待っていたの

品「SILK」十年前は熱処理を施した。しかし、今回は「さなぎが繭を通して見ると、無数の繭の樽

破つて丸になり、外へ出でてくるまでやってみる」。作品の

内(だえん)が不規則に散らばっている。上に向かう性質

変遷 その過程の最初から最後までをいつか美術館で見届けたいと機会を待っていたの

た。十月初めに運び込まれたかいこ議な感慨がわいてくる。丸太を薄くスライスした

日で糸をほり、熱した竹が割れる音を聞き、網の上にかけたり、近年は溶けたガラスを落とさせ巨大な塊を作つたりと、物質の持つ性質を生じさせたり、仕組みを作つたら、あとの造形は素材任せ。その流儀は今回も変わらないようだ。

十二月十七日まで。月曜と祝日の翌日休み。十一月三日午後にはドラムのワークショ

ップ、二台のドラムによるラップなどのイベントがある。永だが、展覧会の依頼があつた。

(報道部・鈴木弘)



美術館の窓 た時この場所、この美術館で

に対応して三しかできない表現を考えた。

つ並んで空中細かく仕切った木枠に繭を

につられた作 作らせた「幻の作品」は、二

年後までをいつか美術館で見届けたいと機会を待っていたの

だという。

さなぎになつたかいこは二日ほどで羽化する。繭から出た成虫は交尾し、メスは卵を産む。作品がどう変化して

いた

せ。その流儀は今回も変わら